

(明治三十年六月五日遞信省第三種郵便物認可)
每週木曜日發行

明治三十五年十月十六日發行

通商彙纂

第二百三十四號

外務省通商局

附 録

◎韓國鬱陵島事情

地勢、在島韓民ノ狀況、物産、船舶碇泊場、本邦在留人概況
商況、漁業ノ狀況、氣候、傳染病、組合規約

(外務省通商局)

第一、鬱陵島ノ地勢

鬱陵島ハ江原道蔚鎮ヲ距ル四拾里前洋ニ在ル一孤島ニシテ
周回九里半餘其形狀不等三角形ニ似タリ全島ノ海岸ハ斷岩
絶壁ニシテ渚濱渺ク随テ大船巨舶ヲ入ルヘキ良港ナク僅ニ
道洞、芋洞其他二三ノ小灣小曲江アルノミ而シテ沿岸ノ海
底ハ多クハ岩石ニシテ船舶ノ投錨碇泊ニ便ナラスト云ヘ
リ
地勢ハ山岳連亘シテ平地坦路至テ少シ往昔ハ全島森々タル
樹木繁茂シ晝尙ホ暗キノ觀アリシモ今ヤ島民ノ繁殖スルニ
從ヒ海岸附近ハ一體ニ伐木開拓シテ農作地トナセリ
ヲツセミ島ハ臥達里ノ前洋ニ在リ本邦人之ヲ竹島ト俗稱ス
周回三拾丁餘「タプ」女竹繁茂スト雖トモ飲料水ナキヲ以テ
移住スルモノナシト云フ、又亭石浦ノ海上ニ雙燭石及島牧
ノ島嶼アリ周回二十丁本邦人之ヲ觀音島ト稱シ其岬ヲ觀音
崎ト云ヒ其間ヲ觀音ノ瀬戸ト呼ヘリ、又雙燭石ハ二三岩高ク

樹立スルニヨリ三本立ノ名アリ、其他周圍ノ海岸ニ數箇ノ
峻巖アリシモ一モ名稱ナク唯タ光岸ノ前面ニ倭島アレトモ
至テ小島ナリトス

羅里山ハ本島ノ中央ニ在リ連山重嶂中最モ高ク聳ヘ大樹喬
木鬱蒼トシテ天ヲ覆ヒ降雪ハ四時結氷シテ溶解セサルニヨ
リ其山壑ニ入レハ夏尙ホ寒シト云フ、而シテ其半腹ニ約八
丁四方平坦ナル地アリテ韓民等農耕ニ從事スト雖トモ瘠地
ニシテ大豆麥作ニ適セサルヲ以テ大概唐黍ヲ作り居レリ、
錐山ハ羅里洞ノ北方ニ突起シ羅里山ニ比スレハ稍高ラスト
雖トモ崔嵬タル岩山ニシテ頂上ニ樹木繁生シ海岸ニ聳立ス
ルヲ以テ人皆之ヲ本島ノ高山ト稱セリ、其他鬱鬱タル連峰
アリト雖トモ未タ一々其名稱ヲ付シタルモノナシト云ヘリ
島中最大ナル溪流ハ南陽川、臺霞川ノ二川ニシテ之ニ亞ク
モノハ通伏、竹岩等ノ諸流トス、其溪流ハ四時涸ル、コトナ
ク水質純良ナルヲ以テ島民一般飲料用ニ供セリ

第二、在島韓民ノ狀況

本島韓民ハ古來永住ノ者ナク今ヲ距ル廿一年前江原道ヨリ
始テ喪季周、金大木、卞敬云、田士日ノ四名渡航シ同行者ハ
協力以テ山間ヲ開拓シ島地ヲ作りテ農耕ヲ業トセリ、然ル
ニ其翌年ニ至リ江原道江陵地方ヨリ黃鐘海、崔島守、田士
雲、金花淑、洪奉堯、李孫八及全羅道地名不詳張敬伊ノ七名
來島セシ以來年々歳々江原慶尙咸鏡全羅ノ四道ヨリ移住ス
ルモノ多クシテ何レモ各地ニ散在シ精勵以テ開墾ヲ爲シ專
ラ農業ヲ營ミ漁業ニ從事スル者ハ僅少ナリトス而シテ本島
ノ東南面ハ地皆黑色ニシテ朝鮮本土ニ比スレハ地味好良ナ

ルモ西北面ハ瘠地ナルヲ以テ農作ハ豐穰ナラスト云フ
一般ノ風俗ハ寔ニ淳朴質素ニシテ兇暴、殘忍ノ情類ナク到
ル處往々書堂ヲ設ケ兒童ヲ集メテ孔孟ノ教ヲ授クルノ村夫
子アリ漢學一般ニ行ヘル故ニ人情溫厚誠實ニシテ彼我貿易
上ニ於テモ會テ紛擾ヲ醸シタルコトナク在留本邦人トハ常
ニ直接ノ關係ヲ有スルニヨリ至テ圓滑ナリトス

一、村名戸數人口(×印ハ本邦人戸口數)

道	洞	×三十七月	沙	洞	×四十月
遇	伏	×三十七月	新	里	×二月(男九女三)
中	嶺	×三十月(男六女二)	間	嶺	×十月
通	龜	×二十月(男四女二)	南	陽	×五十七月
窟	尾	×五十七月(男三女七)	水	層	×九十月(男二六女二)
山	幕	×二十六月	臺	霞	×三十四月
香	木	×十七月	玄	浦	×六十月(男一五女四)
新	村	×三十五月	光	岩	×十月
鉦	山	×一十月(男一)	羅	里	×三十月
千	年	×六月	昌	洞	×六十月
天	府	×十六月	竹	岩	×十一月
亭	石	×二十月	臥	達	×五十月(男一四女六)
乃	守	×十一月	芋	洞	×六十二月
砂	工	×二十月(男五女四)			×五十月(男七女五)

ノ二十七ヶ村ニ小別ス人家ハ多ク溪間ニ沿ヒ或ハ島中海岸
ニ三々伍々散在シテ人煙稠密ナラス僅ニ羅里洞ニ三十戸天
府洞ニ十六戸集合セルヲ見ルノミ全島ノ韓民ハ昨年ノ調査

ニ據レハ四百四十七戸ナリシモ現今ハ五百五十六戸トナリ
人口三千三百四十名ヲ有スト云フ(本邦在留民縣別人員及
營業種別并ニ昨年度輸出入表ヲ添付ス)

第三、本島物産

楓梅、五葉松、黃柏、一テンボ梨、タブ、二ブナ、山檜、桐、
白檀、椿、櫻、木耳、鰻、桑、黃柏皮、大豆、大麥、胡豆、
小麥、馬鈴薯、鮑、鰻、海苔、天草、甘藷、郭鳥等ナリ
參考(昨年收穫セシ大豆六千石、胡豆二千石、大麥四千石、小
麥三千石以上トス)郭鳥ハ其形狀鴈ニ類似シ晝間三十海里
以外ニ遊泳シ夜間本島森林ニ棲息ス土民ハ暗夜山上ニ焚火
ヲ爲シ四方ヨリ集合スルヲ撲殺シ油ヲ搾リテ點燈ニ用ヒ肉
ハ乾シテ食用ニ供ス

第四、船舶碇泊場

本島ハ元來船舶ノ碇繫場ニ適スル江灣ナク寧ろ皆無ト云フ
モ可ナリ、然レトモ道洞ハ全島中ノ良港ニシテ灣内ノ幅員
何レモ七十間餘ニシテ平均深サ十尋ナリトス、而シテ東西
ノ兩岸ハ巍々タル絶壁ナレハ碇泊船ハ其巖石ニ繫留シ僅ニ
數艘ヲ碇泊スルニ足ルノミ故ニ滯留ノ船舶ハ一時渚邊ニ曳
上ケ出荷ヲ待テ再ヒ出港セシムルコト、ナス其狹隘ニシテ
大船巨舶ノ出入スル能ハサルコト推シテ知ルヘキナリ、又
一朝東南及南西ヨリ強風吹荒ミタル時ハ忽然激浪ヲ起シ甚
シキニ至レハ泡沫濱邊ノ住屋ニ飛ヒ來リ其猛勢當ルヘカラ
サルヲ以テ港内碇繫船舶ノ衝突危險ナルコト眞ニ名狀スヘ
カラサルナリ、然レトモ他ニ港灣ナキヲ以テ本島ニ出入ス
ル船舶ハ悉ク同港ニ寄泊ス殊ニ本邦人ノ多數ハ此地ニ在留

シ輸出ノ貨物ハ總テ此地ニ集散セリ、芋洞ハ本島ノ東面ニ位スル停船場ナルモ極メテ狹隘ナルヲ以テ船舶ヲ碇繋スルニ足ラスト雖トモ西南風ヲ避ケ一時寄泊スルニ便ナリ、沙洞ハ港灣ニアラサルモ海底砂礫ニシテ岩礁ナキニヨリ船舶ヲ投錨碇泊スルニ便ナルヲ以テ汽船ハ總テ此地ニ碇泊スルコト、ナセリ、其他通龜尾、南陽洞、台霞洞、玄浦、竹岩等ノ小曲江アリト雖トモ皆海底ニ岩石暗礁多クシテ船舶ノ碇泊ニ適セスト云フ

以上列記スルカ如ク本島ニハ良港ナキヲ以テ汽船ノ寄航スル時ハ常ニ風位ニ從ヒ碇泊位置ヲ轉變避難セサルヲ得サルナリ

第五、本邦在留民ノ概況

往昔石州濱田、伯州境地方ヨリ本島ニ渡リ樹木ヲ伐採シ輸出セシコトアリ又明治十二三年中大阪ヨリ東京社ハ多數ノ樵夫ヲ連レ來リ槻ヲ伐採シテ京都某寺ノ建築用材ニ供シタルコトアリシモ其頃迄ハ無人島ナリシニヨリ在住シテ製材或ハ漁業ニ從事シタルモノナシト雖トモ其後明治二十五年ニ至リ隱岐ノ國ヨリ製材者數名渡航シ來リ始テ假小屋ヲ構ヘ永住スルニ至レリ然レトモ今ヤ初航者ハ僅ニ製材兼鍛冶業島根縣平民脇田庄太郎一名現住シ其他ノ渡航者ハ長クモ七八年ニ過キス、然リ而シテ爾來年々在留民ノ増加スルニ從ヒ不良ノ徒入込ミタルヲ以テ取締ノ必要起リ明治三十年四月日商組合會ナルモノヲ組織シ在留民ノ安全ヲ保持スル爲メ二名ノ幹事ヲ置キ之カ取締ヲ爲シタリシモ人口頗ニ増加シ從來ノ取締法ニテハ到底整理スヘカラサルノミナラス

渡航者ハ概ネ無智文盲ノ儕輩ニシテ日々紛擾ヲ起シ強ハ弱ヲ凌キ智者ハ愚者ヲ欺キ甚シキニ至テハ兇器ヲ携ヘ暴行ヲ加ヘ他人ノ物件ヲ強奪セシコトアルモ之ヲ制止スルモノナク非常ニ良民ヲ苦ムルコト少カラサルニヨリ在留ノ重立タル有志者ハ明治三十四年七月在留民一般ニ議リ更ニ日商組合規約ヲ制定シ無給ノ組合長一名同副長一名有給取締一名ヲ置キ其下ニ名譽議員十五名ヲ撰舉シ在留民ノ事故ヲ合議裁決シテ舊來ノ陋習ヲ一洗セント欲シ刑事ニ係ルモノハ拘置監ヲ設ケ同所ニ留置シテ前非ヲ悔悟セシメ重キ者ハ本邦最近ノ警察署ニ護送スルコト、ナシテ規約ヲ勵行シタリ、本年一月四日組合員中ニ紛議起リ元組合長ハ組合ヲ破壊セント欲シ自己ノ使役スル多數ノ木挽及ヒ勞働者ヲ煽動懷從セシメ脫會ヲ申込ミタリ依テ組長取締等ハ種々調停ノ道ヲ盡シタレトモ遂ニ調停スルコト能ハスシテ決然其脫會ヲ認可シタリ、茲ニ於テ在島ノ本邦人ハ全然二派ニ分立シ脫會者ハ全員四分ノ三強ニ達シタルニヨリ組合員ハ僅ニ四分ノ一トナリス、其後商取引ハ勿論私交上相反目スルニ至リ日商組合ハ實ニ萎靡振ハサリシモ飽迄正義ヲ主唱シテ多數ノ反對黨ニ屈從セス維持シタリシカ外務省ヨリ警察官駐在所ヲ設置セラル、コト、ナリシ以來本年四月二十三日續々前非ヲ悔ヒ再ヒ入會ヲ申込ミタルニ付組合員モ快ク其請ヲ入レ脫會者ヲシテ悉ク入會セシメタリト云フ、而シテ本年四月二十八日以降ハ警察官駐在所創設セシニヨリ從來ノ取締規約ヲ改正スルコトニ決定セリ

第六、商況

本島ニ在留スル日韓人ハ一般現金取引ヲ爲スコトハ稀ニシテ瓦ニ物品貿易ヲ主トス故ニ彼我兩民ハ細大トナク大豆ヲ以テ通貨ニ代用セリ、韓人向ノ輸入品ハ金巾、天竺木綿、甲斐絹、紡績糸、石油、燐寸、酒、鹽、小雜貨類ナルモ少數ノ需用者ナルヲ以テ利潤少シト云ヘリ、其他ハ本邦人間ニ於テ日用品ヲ賣買スルノミ輸出品中大豆、胡豆、小麥、黃柏皮少量ノ竊ハ韓人ヨリ其他ハ本邦人ノ製材及海產物ナリトス參考 規ハ海岸附近及運送ニ便利ナル場所ハ悉ク伐採シ今ヤ奥深ク入ラサレハ良材ヲ得ルコト能ハサルノミナラス全所ニ於テ製材セハ道洞迄運搬スルニ非常ナル經費ヲ要スルヲ以テ本邦ニ輸出スト雖トモ利潤ヲ見ルコト能ハサルニヨリ爾來ハ梅五葉松「チンボ」梨ノ類ヲ製材ニ着手スルト云ヘリ

物價并ニ職工賃及昨年度輸出入表ヲ添付ス

第七、漁業ノ狀況

本島ノ漁業季節ハ例年三月ヨリ九月迄ニシテ收穫物ハ鮑、鰯、天草、海苔、若芽ノ數種ニ過キス、漁業者ハ多ク熊本ノ天草、島根ノ隱岐、三重ノ志摩地方ヨリ渡來ス而シテ韓人漁夫ハ皆無ノ有様ナレトモ毎年全羅道三島地方ヨリ多數ノ漁夫等渡來シテ海岸ニ滿生スル若芽ヲ採收セリ本年ハ天草隱岐ノ漁業者都合水潛器船八隻道洞ヲ本據ト定メ又志摩ノ鰻船二隻天草ノ海士舟一隻ハ苧洞ニ假小屋ヲ構ヘ何レモ全島ノ海岸ヲ巡漁セルモ今年ハ昨年ニ比シ餘程不漁ナルニヨリ利潤多カラサル見込ナリト云ヘリ、又本島ノ正東約五十海里

ニ三小島アリ之ヲリヤンコ島ト云ヒ本邦人ハ松島ト稱ス、同所ニ多少ノ鮑ヲ產スルヲ以テ本島ヨリ出漁スルモノアリ然レトモ同島ニ飲料水乏シキニヨリ永ク出漁スルコト能ハサルヲ以テ四五日間ヲ經ハ本島ニ歸航セリ

第八、交通

本島本邦間ノ交通ハ毎年三月ヨリ八月迄ニシテ馬關、境、濱田、隱岐ノ西郷港ニ和船ノ往復スルコトアルモ九月以降ハ常ニ風波激烈ニシテ航海スルコト能ハサルニヨリ交通皆無ノ姿ナリトス、依テ在留民ハ毎年三月初航ヨリ増員スルモ九月十月ニ至レハ便船毎ニ歸國スルモノ多ク一昨年ノ如キハ僅ニ九十九名昨年ハ三百五十名越年シタリト云フ、然ルニ昨年ノ如キハ輸入米ノ少カリシ爲メ十二月頃ヨリ糧食ニ缺乏ヲ生シ在留民ノ大半ハ草根、木皮ニ大豆ヲ加ヘ常食トナシ非常ニ困難セルニヨリ本邦ニ便船ヲ特發シ食料ノ輸入ヲ求メタリシモ冬季ノ航海ハ危險ナルヲ以テ之ニ應スルモノナク終ニ境港三光社ニ依頼シ漸ク本年二月十六日汽船第二三光丸(總噸數百六十噸)ニテ食料ヲ積來リ在留民ノ需用ニ充テタルモ少量ナルニヨリ引續キ三回食料輸入ナサシメタリト云フ

本島ヨリ釜山及境濱田馬關等ヘ和船ニテ航海セハ約二晝夜半汽船三光丸ハ境港迄一晝夜ヲ要ス然レトモ常ニ強風多キニヨリ一ケ月中出帆スルニ足ルヘキ天候ハ五六日ニ出テス又當港ヲ出帆スルモ進航中風位ヲ變シ強風吹荒ミ目的地ニ到達スルコト能ハスシテ多ク越前敦賀三國但馬丹後佐渡能登等ニ漂着シ或ハ海上ニ於テ破船シ是迄無事ニ直航シタル

者僅少ニシテ二航海ニ一回ハ必ス何レニカ漂流シ實ニ危險ナリト云フ、又韓國本土間ノ交通船ハ皆無ニシテ在島韓民等協同以テ本邦和船ヲ雇入レ蔚山又ハ釜山ヘ大豆ヲ輸送シテ需用品ヲ買收スルコトアルモ一々年二三回ニ過キス、又夏期ニ至レハ全羅道三島地方ヨリ若芽採收ノ爲メ二十艘内外來島スルコトアリト雖トモ荷物滿載セハ何レモ本土ニ歸航シ其他航海用ニ適スル船舶ヲ所有スルモノナシ然レトモ偶ニハ釜山港ヨリ和船ヲ雇入レ來島スルモノアリ本年四月十一日小宮萬次郎持船太平丸ハ韓人向雜貨及多數ノ韓人ヲ便乗セシメ釜山ヲ發シ五月一日當地ニ到着シ該船ハ今ニ陸上ニ曳上ケ韓人ノ出荷ヲ待チ居レリ

(參考)本年五月中常港出入シタル船數及ヒ場所ハ左ノ如シ
入港ノ和船ハ釜山ヨリ一艘長鬚牟浦ヨリ二艘隱岐ヨリ五艘赤間關ヨリ一艘境ヨリ二艘合計十一艘ニシテ出港ノ和船ハ赤間關ヘ二艘博多ヘ一艘長鬚牟浦ヘ一艘境ヘ汽船一艘合計五艘ナリキ

第九、氣候

本年五月中平均華氏六十五度ナリシモ七八月頃ニ至レハ日中百度内外ヲ昇降スルモ朝夕ハ七十度内外ニシテ冬期ハ二十度内外ニ降ルコトアリト云フ、然レトモ寒氣ハ凜烈ナラスシテ本邦人初渡以來會テ水腫ノ破裂セシコトナシト云ヘリ降雪ハ十二月頃ヨリ二月頃迄ニシテ毎年四尺以上七尺位降リ積ルト云フ

第十、傳染病

本島ニ於テ天熱痘、麻痘、亞熱ノ外會テ他ノ疾病ニ罹リ

タルモノナシ然ルニ昨年舊七月十九日赤痢患者一名特發シタルモ醫藥ハ勿論消毒劑ノ用意ナカリシ爲メ終ニ病毒ハ傳播シテ十四名ノ患者ヲ發生シ内二名ハ死亡シ残り十二名ハ全年舊八月末ニ至テ全治セシト云フ依テ本年五月十五日戸毎ニ大清潔法ヲ施行セシメタリ
參考ノ爲メ左ニ組合規約ヲ掲ク

組合規約

第一條 本組合ハ鬱陵島日商組合ト稱シ在島日人合議ヲ以テ組織シ事務所ヲ道洞ニ設ク

第二條 本組合ハ組合長副長取締ノ三名ヲ置キ本組合一切ノ事務ヲ執掌シ且ツ公平無私民事刑事ノ訴訟ヲ裁判シ賞罰ヲ行フノ權利ヲ有セシム

但シ組合長副長ハ名譽職トシ取締ハ月給二十五圓ヲ與フ任期ハ各滿一ケ年トス

取締ハ給仕一名ヲ使フコトヲ得

第三條 組合長副長取締ノ下ニ名譽職議員十三名ヲ置キ組合長取締ヲ補佐シ且ツ本組合ヲ監督セシム

任期ハ滿一ケ年トス

第四條 組合長取締ハ議員ヨリ推撰シ議員ハ一般組合員ヨリ撰舉スヘシ

第五條 以上ノ職員ニシテ歸國スヘキ必要又ハ病氣其他正當ノ理由アリテ辭任スルトキハ直チニ補欠撰舉ヲ行フヘシ

第六條 本組合ニ加盟セント欲スルモノハ本籍氏名ヲ事務所ニ届出規約ヲ承認シ名簿ニ記名捺印スルト同時ニ登記

料トシテ韓錢百文ヲ納ムヘシ

但シ船舶ニ在テハ船頭一名トス

第七條 船舶入港ノ時ハ船長ハ直チニ積荷目録及便乗者ノ氏名等事務所ニ届出ツヘシ且ツ出港ノ時モ亦同シ特ニ便乗者ハ取締ノ認可ヲ得ルニ非レハ便乗セシムヘカラス

第八條 本組合ノ費用ハ毎月四十圓ヲ超過セサル範圍ニ於テ一般組合員各民等ニ割當テ徵收スヘシ取締ハ其翌月十五日限リ前月ノ收支勘定報告スヘシ

第九條 本組合ニ加盟セサル者ハ左項ノ場合ヲ除クノ外都テ取引上絶交スヘシ

國辱事件 船舶及生命ノ危急

第十條 本組合員ニシテ韓人トノ關係及取引上彼ニ對スル所爲事苛酷ニ失シ曳テ一般組合員ノ安寧秩序ニ障害アリト認メタルトキハ本組合員ハ極力干涉シ場合ニ依リ退韓ヲ命スヘシ

第十一條 本組合ハ相互信義ヲ主トシ可成競争的行爲ヲ禁シ亦己ヲ利スル爲メ暗々他人ヲ誹議シ詭言ヲ設ケテ其人ノ名譽ヲ毀損スヘカラス且ツ他人ノ危急ヲ見テ知ラサル爲シテ避クヘカラス

第十二條 組合員間都テノ契約證ニ對シ取締ノ登記ヲ經タルモノニ限リ原被間直接ニ強制執行スルコトヲ得但此場合ニ於テハ先ニ取締ニ届出即時ニ指揮ヲ乞フヘシ

第十三條 本規約ノ發布前後ニ論ナク前條ノ登記ヲ經サル契約證又ハ口頭ニ止メテ定約ヲ爲シタルモノニ付起訴セ

ントスルモノハ先ニ裁判費用トシテ五百文及脚夫賃一里毎ニ二百文ノ割合ヲ以テ前納スヘシ組合長ニ於テ受理セシ上ハ可成の至急ニ判決ヲ與ヘ而シテ家資有限執行スヘシ(家資執行ハ一名ヲ事務所ヨリ特派スヘシ)該費用ハ競賣立會者ノ日當ト同シ

但本條ノ費用及競賣立會者ノ日當即チ一日五百文ツ、ハ追テ敗訴者ヨリ出金セシム

第十四條 前二條ノ場合ニ於テハ被告人カ一周間ヲ支フヘキ喰料及氣候ニ相當スル衣類一着寢具又就寐スル丈ケノ一室ヲ除キ他ノ動産一切ヲ差押ユヘシ

但差押ヘタル物件カ被告ノ所有ニアラサルコト明瞭セシ上ハ之ヲ返付スヘシ

第十五條 若シ財産ヲ隱匿シタルモノハ詐僞取財ノ罪トナス又被告ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ補佐セシモノハ共犯者トシテ一等ヲ減ス

第十六條 刑事ノ告訴事件ニ付テハ裁判費用ヲ納ムルヲ要セス組合長直チニ受理スヘシ

第十七條 犯則者ヲ密告セントスルモノハ直ニ事務所ニ訴フヘシ事務所ハ該訴者ノ氏名ヲ發表セスシテ其犯則ニ依リテ得タル物件又ハ罰金ノ五割以上ヲ密告者ニ與フ

第十八條 道洞ニ一個ノ匿名投書函ヲ設ケ一般ノ犯則者安寧ニ障害アル件傳染病患者隱蔽等ヲ投書セシム取締ハ時々開函スヘシ

第十九條 葛藤事件ニ付起訴セントスルモノハ裁判費用トシテ一貫文ヲ事務所ニ前納セシム追テ敗訴者ヨリ出金セ

シム

第二十條 組合員ハ負債ノ義務ヲ辨濟スルニ非レハ歸國ヲ許サス

但病氣又ハ犯罪其他止ムヲ得サル事故ニ依テ退去セシムルトキハ此限リニアラス

第二十一條 歸國者ニシテ負債ノ義務ヲ負フモノト雖トモ債主ヨリ其旨事務所ニ訴ナキトキハ事務所ハ其責ニ任セス故ニ道洞在留組合員ハ勿論他所ニ在ル組合員ハ船舶出港ノ際特ニ注意スヘシ

第二十二條 船舶ノ契約期日ヲ經過シ貨物ノ積不足ヲ生シタルトキハ其多少ヲ論セス左項ノ順序ニ依リ日待費用トシテ違約者ヨリ本船ニ支拂ヘシム

据船一日百石ニ付一圓五十錢港内繫留船一日百石ニ付二圓二十錢

第二十三條 組合員ハ決シテ自己ノ人權ヲ奪ハル、コトナキニヨリ例ヘハ商品ノ賣買又組合員間ノ取引上又職工等ニアリテハ雇主ニ對シテモ謂ハレナキ束縛ヲ受クヘカラス其權利ノアル所ハ十分主張スヘシ

第二十四條 組合員間ハ他人ノ雇入タル職工又ハ契約アル漁業者又ハ豫メ契約アル物件等卑劣手段ヲ以テ已レニ引込ムヘカラス

第二十五條 組合長取締等ノ判決ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ不服ヲ唱フルモノハ更ニ議員半數以上合議ノ裁判ヲ乞フヘシ

第二十六條 組合長以下議員ニ關係ヲ有スル被告事件ニ就

テハ本人ハ席ヲ避ケシメ合議ニ與カルヘカラス

第二十七條 韓人等ノ物件ヲ竊取シ又ハ烟物ヲ荒ラシ婦女子ニ對シテ猥褻ニ涉ル言語及所置セルモノハ狀況ニヨリ退韓ヲ命スヘシ

第二十八條 傳染病患者隱蔽夜間十二時歌舞喧嘩他人ノ安眠妨害火ヲ失シ風吹ニ露天ニテ火ヲ燃シ集合ノ出席ヲ遲延シ飲料水ヲ不潔ナラシメ井戸近傍及河川ニ不淨物汚穢物ヲ散布スヘカラス且ツ他人ノ足駄ヲ無斷ニ使用スヘカラス

第二十九條 組合員間ノ取引上ハ毎月末勘定トス但各自信用券ヲ發行スルハ妨ナシト雖トモ之ヲ受クルト否トハ當事者ノ適宜タルヘシ

第三十條 本組合ニ於テ特ニ認可ヲ與ヘタルモノハ公衆ニ對シテ實行スルハ妨ナシ例ヘハ木挽組合取締法又ハ船据費用徵收法ノ如シ

第三十一條 重罪ヲ犯シタルモノハ逮捕シテ日本ニ護送シ最寄警察署ニ引渡スヘシ

第三十二條 本規約ヲ更正セントスルトキハ組合長以下議員半數以上ノ同意アルニ非レハ訂正セス

第三十三條 第一條ヨリ逐條本條ニ至リ固ヨリ十分盡ス能ハサルニ依リ先ツ組合長取締等ニ一任シ置クヘシト雖トモ一大的事件及本條ニ掲クル以外ノ事件ニ至リテハ組合長以下議員會議ヲ以テ實行スヘシ

第三十四條 本組合費用民等割月々事務所ヨリ納付通知アリシ日ヨリ五日以内ニ納付セサルモノハ直ニ強制執行ヲ

爲スヘシ

罰則

第三十五條 本規約ノ違犯者ハ民事々件ニアリテハ相當ト認ムル損害要償又ハ刑事事ニアリテハ一日以上十日以内ノ拘留及誤韓付帶損害要償罰金ニアリテハ百文以上五貫文以内トス船舶出港ノ際負債ノ義務アルモノヲ隠匿シテ便乗セシモノハ船長ヲ相手取り負債ノ義務ヲ負ハシム但罪質ノ情狀ニヨリ酌量加減スヘシ
右之通合議ノ上相結ヒ候也

明治三十四年陽八月八日

本組合役員名

組合長	畑 本 吉 造
組合副長	片岡 吉 兵衛
取 締	深田 甚 太郎
議 員	福間 兵之助
全	宇野 若 次郎
全	古 木 新 作
全	中西 秋 太郎
全	脇田 庄 太郎
全	天 野 源 藏
全	門 萬 太 郎
全	淀 鐵 次 郎
全	井 上 太 吉
全	藤 野 金 太郎
全	由 浪 乙 次郎

南陽洞詰

縣 別	男	女	平 民	合 計
北 海 道	：	：	：	：
奈 良 縣	：	：	：	：
東 京 府	：	：	：	：
京 都 府	：	：	：	：
大 阪 市	：	：	：	：
神 奈 川 縣	：	：	：	：
兵 庫 縣	：	：	：	：
長 崎 縣	：	：	：	：
新 潟 縣	：	：	：	：
福 井 縣	：	：	：	：
三 重 縣	：	：	：	：
愛 知 縣	：	：	：	：
靜 岡 縣	：	：	：	：
山 梨 縣	：	：	：	：
滋 賀 縣	：	：	：	：
岐 阜 縣	：	：	：	：
石 川 縣	：	：	：	：
島 根 縣	：	：	：	：
鳥 取 縣	：	：	：	：

一、爵陵島在留本邦人縣別表

黃土浦詰 全 谷富之助
昌洞詰 全 吉井留次郎

拾六名也

營業別	貿易	菓子	木挽	材木	蛭
現在	二四	二	九五	五	六六
營業別	仲買	魚	鍛冶	潜水器	鵜製造
現在	三	一日	七	八	三
營業別	雜貨	雇	斬髮	船乘	下駄
現在	五	三三	二	六〇	一
營業別	酒小賣	大工	農業	雜業	蛭船
現在	三	四	一	一六	三

一、**樽陵島在邦留本人職業別表**
(五月末調査)

第二百三十四號 附錄